

オリエンテーリング さくらんぼ二日間大会 2005

平成 17年 6月 18日(土) 6月 19日(日) 山形市県立西蔵王公園・山形県山辺町県民の森

オリエンテーリングの大会で世界を探してもこんなユニークな大会は他にない。賞品のさくらんぼは高価な佐藤錦を五十数kg。運営は爺爺を中心のファミリーにご縁のあるものが当日馳せ参じた十数名。レースも斬新なアイデアで二日間に3レース。幼児達もストリームオリエンテーリングで楽しんでいる。

さくらんぼのゲット厳命!

ME 山本英勝

実はさくらんぼは苦手である。好きなのだがアレルギーがあるようで食べられない。さくらんぼ好きの妻が「さくらんぼをゲットに行こう!」と参加を強く希望していたが、そういうわけで、あまり乗り気ではなかった。

そもそも、最近のていたらくからして、さくらんぼをゲットするなんて無理。ところが、どうもその週末日本のトップ選手は愛知で合宿。参加はなさそう。チャンスがあるかもしれない。そんなわけで、さくらんぼをゲットし、ちょっとカッコいいところを見せるいい機会かもしれないと、不純な動機で参加を決めた。

スタートリストが出来上がると、エリートに出ていてもおかしくない選手が、欲に目が眩んだのか、軒並みMAに出ている。ME出走はほとんどいない。見たところ、普段からエリートを走っているのは入間市OLCの水嶋と京葉の吉村ぐらいか。そんなことを妻に話したら、「絶対に勝たないと家に入れてあげない」なんて言われてしまった。

とにかくスプリントは失格と分単位でのミスが怖い。失格になったら総合の対象からはずれてしまうし、スプリントのタイムが4倍換算という今回のルールでは少しのミスが総合に大きく影

響する。それなのに前半で一つミスをし、1分後スタートの水嶋を背後に感じながらのレースとなってしまった。そのプレッシャーもあり、ラス前で尾根を登る直線的なルートを取るルートミス。その上、隣の沢にパラレルエラー。パンチもしてしまい、危うくペナになるところだった。結果として水嶋に抜かれてしまい、総合で4分以上のハンデを負ってしまった。

いくらなんでも4分差は大きい。何が何でもミドルで勝ってタイム差を狭めなければならぬ。しかし、物事はそううまくいかず、中盤の大きなミスが響き、逆に2分差で負け、換算するとロングを前に8分30秒もの大きなハンデを抱えてしまった。



ラストコントロールの山本賀彦

「カッコいいところを見せる」計画はどっかへ吹っ飛んでしまい、水嶋に3タテされそうな勢いだった。2位確保とさくらんぼゲットは問題なさそうだったが、これでは「やっぱりエリートはもう引退じゃない」とでも言われてしまいそうだった。ロングで一発逆転を狙うしかなかった。

もともとロングの方が得意。その上、崖っぷちでの集中力が働いた。前半から好調。中盤の尾根超え、急斜面のコンターリングレグはミスしたのがもったいないが、ひょっとしてと思えるぐらい良い内容。水嶋が少しつぼめてくれていたら可能性が、と思い始めたのが後数レグ残した後半...

「ヒディ!」

と大きな声。声の方向を見ると、遠くに妻がオープンの向こうを走っている...「なかなかがんばって走っているじゃん」と気がそれたからか、目指しているコントロールを若干ハズしてしまった。やばいやばい、と思いながらスピードをアップすると更にミスしてしまった。そのまま次のコントロールもミスし、立て続けに3つミスをしてしまった。

ゴールすると、ロングは断トツトップも、総合では水嶋に2分22秒差の二位。もらえるさくらんぼの箱も半分サイズのになってしまった。

とはいえ、最近あまりなかった自分がオリエンテーリングで活躍する場を与えてくれた、さくらんぼ二日間大会にはとても感謝している。本当のトップ選手が来るであろう来年もぜひ参加し、今度こそカッコいい姿を見せられるよう、今からしっかりトレーニングしていきたいと思う。

(山本英勝)

故郷で久しぶりの運営

堀江守弘

スウェーデンから帰国して間もなく、大会運営のため山形に向かった。久しぶりの山形は以前と変わることなく、周囲を山々に囲まれた盆地だった。

その盆地を形成する山の中でも、向かい合うようにそびえた立つ西蔵王と県民の森、これが今回のトレインだ。つまり山形市を中心に東西正反対に位置する2つのトレインでの二日間大会である。

「さくらんぼ2日間大会」とはその名の通りさくらんぼが賞品として振舞われる、世界でも珍しい大会だ。フルーツの中でも高級な佐藤錦のさくらんぼが賞品と言うだけあって、参加者の意気込みも普段以上のものを感じた。

中には家族からゲットを厳命された者や自ら必ず持ち帰ると宣言して家を出てきたものが居ると聞く。

運営陣もまた、他の大会とは一味違うのがこの大会である。大学のクラブでもなければ、地域クラブでもない、県協会が中心になっているわけでもない。武石ファミリーと武石さんにご縁

のある人々が集まって大会を開いているのだ。

枠にとらわれない運営メンバーというのもこの大会ならではの。

私は今回、地図の印刷を中心に運営に携わることとなった。大学の対抗戦も併設された今回の大会では200名を超える参加者があり、2日間3レースにわたって行われたため、約600枚

の印刷となった。小人数での運営と時間不足でチェックが行き届かず、ミスをしてしまった部分もあった。

オリエンテーリングの競技自体にミスはつきものだが、運営面でもいたるところにミスとなりうる要素が隠れているものだと、再認識させられた。

ミスをせずに完璧な運営をするというのは非常に難しいことである。

入梅したばかりにも関わらず、大会当日は真夏日となる天気だった。当日だけの助っ人運営者も加わり、大会はスムーズに進んだ。

参加者の皆さんには満足していただけただろうか。6月の定番、日本ならではの大会として今後もさくらんぼ大会が行われればと強いと思う。

(堀江守弘)



クラスごと参加者数に比例して箱の大きさが異なる。仲良しコンビがうれしいさくらんぼ表彰！ 来年こそでっかい箱を！

欲張りじいじの反省

武石雄市

開催時期として定着してきた感があるさくらんぼ2日間大会。

今年は1日目を西蔵王公園で2日目におなじみの泉の森を開催地と決めたのは昨年の暮れ、降雪が遅かったとはいえ、どちらもたっぷり積雪があり地図調査は雪解けを待つより他にない。

気がかりなのは初めての西蔵王、公園管理者に使用許可申請して調査入園は認められたが、十数年ぶりの豪雪に見舞われて調査に入れない。

ようやく遅い大山桜が開花したところ町井稔氏(多摩OL)と二人で4日間の調査。ベテランマッパーの町井氏は見事に作図を完成してしまった。

調査範囲を分担したが欲張り爺爺は、西方や南北に広がる白い林に眼が行き、

なかなか進まないで町井氏が越境してほとんど一人で調査と作図をした。

次の心配は運営者の確保。以前から交流がある東北大OBである院生も、今年は手伝える人数の見積もりが付かない。それでは、と、対抗戦(筑波一東北MG)を併設して、お互い少ない人数を合体して最低限の人数を確保できる見通しとなった。

事前準備も以前は我が家のファミリーが役に立ったが、子沢山となり育ち盛りの子供が増えて当てに出来ない。

窮状を聞きつけて自発的に馳せ参じてくれた方や、留学先から帰国直後の方まで集まって助けてくれた。

異常気象で完熟が遅くなった賞品のさくらんぼも心配したが、懇意にしている園主が初出荷を惜しげもなく提供

してくれたことには頭が下がる。

2日間に3レース+ストリームOL、そして夜にはキャンペーンで来日したスキーワックスの講習まで引き込んだ。

若者に任せた競技セットは少なからぬミスがあったが、反省して来年に活かすこととします。

皆様、ありがとうございました。来年、6月17日(土)-18日(日)、再び山形でお目にかかりましょう。

(武石雄市)